【東日本大震災支援活動】

2014.9.30

東京農工大学科学博物館・友の会

2012 年の取組み

博物館は耐震およびリニューアル工事のため休館、8 月から引越し作業、10 月リニューアルオープン。本格的に友の会活動再開。

◆東日本大震災支援実行委員会は、前年度委員会の申し送りにより、全サークルから委員を選出する。

第 1 回東日本大震災支援実行委員会　　**5 月 30 日　プレハブで**

今年度の活動　決定

1．国分寺「ギャラリーうぉーく」9 月 15 日～17 日

2．農工大学園祭　11 月 10 日～11 日

3．中村教授南相馬プロジェクトへの支援

1．8 月 4～5 日　第 3 回「地域住民・移住者・ボランティアによるふるさと復興会議」に参加した。

この会議に中村先生が友の会の活動計画書を持っていきたいと依頼を受け、

①まだ計画書を書ける段階にない。

②手工芸の技を生かした援助のあり方を、会員自身が現地を知らなければ計画が立てられない。

③計画の協力者の方々にも直接お会いしたい。

以上の 3 点の理由で中村先生に同行することにした。

同行希望者は 5 名　簡単に出来る作品見本を持ち寄る。（土曜会およびわら工芸 OG）

出席した復興会議で相馬農業高校の生徒が被災当時の状況、復興への取組みを発表したが、その中に“馬ぼうず”人形があり、現地のニーズにあった作品と出会えた感触を得た。

馬ぼうず

折紙のクリスマスバージョ

仮設住宅の訪問では折紙細工のグループと、集会室にいらした婦人方に会えて、持参した作品見本を手にお話したが、一見の見学者とみなされたようであった。しかし、海外へ送るという折紙の“クリスマスバージョン”に注目した。

2．9 月相馬農業高校の「馬ぼうず」製作の生徒を訪問。（手紡ぎ OG,沖、中村）

2-1　「馬ぼうず」製作した生徒が著作権を取得したことが分かり、お土産品にして販売した際の収益をどう扱うか等の仕組みがない中で、友の会としては取組めないと判断した。

2-2　11 月友の会で土曜会メンバーの方が「折紙のクリスマスバージョン」の製作を仮設の折紙グループに発注して地元のバザーで販売して売上を制作者のもとに届けたが、売上の配分をめぐって、「材料調達・制作・販売・収益配分」の仕組みが確立していない状況での関わりは難しいことを再認識した。

3．11 月　学園祭のフリーマーケットに参加　サークル・OBG

４．３月　「地唄舞の会」から友の会の支援活動を応援してワークショップを委託され実施した　OBG

＊実施委託料を支援へ寄付。

2012 年度の結果として、当初の活動計画であげた事項の修正をした。

事項	当初計画書では・・	実績と学び
【活動の目的】	手仕事は、心身によい刺激をもたらす。また、ささやかではあっても収入につながれば、やりがいも覚える。仮設住宅および“避難地区”で閉じこもりがちな方々に具体的な手仕事を提供する	まず信頼関係を結ぶことから始めなければならない
【活動内容】	作品作りを手ほどきし、完成した作品を販売し、手間賃、売上げを還元する。	お金に関わるシステムがないところには、その仕組みを整備する必要がある
【友の会の役割】	友の会メンバーが作品づくりの援助をし、販売ルートも検討する。いずれ南相馬の方が運営できるまでにしてゆく。 何をつくるか　素材の調達　作り方の指導	友の会の役割は「手仕事」部分の講師。 何をするか、そのことも一緒に模索しながら探すことが大事
【課　題】	1．商品価値のあるものをつくる ・将来、南相馬発の産品にもなるもの ・伝統工芸会の手工芸が生かせ、かつ南相馬の地域性を盛り込んだ商品の提案、開発 2．販売の仕組みづくり ・お金が動くので、非営利団体の登録が必要→南相馬ふるさと回帰支援センター ▪販売ルート　農工大周辺市の商工会と連携する　或いは　ネットに載せる 3．運転資金 ・友の会のバザーは継続して取り組むが、バザー収益の金額で収まるか。	１．相農高の訪問でヒントを得た、休耕田活用の藍、綿等の栽培 学園祭の出品作品にわらで作った馬があり、馬ぼうずに代わる”馬”作品をぜひ提案してみたいと思った。 ２．販売の仕組みについては、友の会の範囲ではないと確認した。 ３．資金は友の会会員によるバザーで得る １．支援資金は現金の提供はしない ２．サークルで習得した工芸の技を用いる ３．一時的な楽しみに終わらせない 現地で継続して取組める支援を目指す。そのための講習会等経費を負担する

会員によるバザー、委託事業を受けるなど活発に支援活動は行う一方で、現地の方と噛合わない、からみ合えない日々が続き、迷いとまどい～　我々の活動は自己満足にすぎないのか？　悶々と過ごした秋冬であった。

５．３月に入り三村さん（中村研の研究員）から連絡あり

農家民宿を経営している森さんの休耕田が借りられることになったとのこと。

畑作業は友の会が行う条件付なので、新学期の混乱時期が過ぎた５月に藍の苗を植えに南相馬の森さんを訪ねた。よい出会いがあり、2013 年度の活発な動きへと繋がっていった。

2014.9.30